



(ああっ！ そうか！ これが「恋」なんだ！)
わたしは、そう確信した。約十三年生きてきて、やっとわかった。

中学生になったら、休み時間の教室では、恋人捕獲のために有効そうな技術の話題、「ゼツタイかわいい春コーデ」「ちょっと大人なヘアアレンジ」など……が一気に増えた。

そういうことに、興味がないわたしは困っていた。

その話のなにおもしろいのか、ぜんぜんわからない。

あと「恋」に侵された人は、みんな情緒がおかしくなる。

さつきまで、目をキラキラさせて、めちゃくちゃ楽しそうだったのに、ふいにほんやり、焦点のあつてない瞳になる。実際に起こってないことを想像しただけで、おちこん

だりする。

なんでそうなるのか謎でしかなかったし、自分はず、そんな風にならないと思っていた……んだけど。

あの子のことに、興味はなかった。ただ、顔立ちが絶妙なバランスで整っていて、背が高く手足が長い人だというのは、知っていた。

それに、明るくて、おしゃれで、おもしろいことも言うのが、人に好かれる理由だろうな、とは思っていた。

「必死でがんばっている感じじゃないのに、成績もいいし。なんかいつも余裕なのがカッコいい」

「その上、料理とダンスが得意って。もう完ぺきじゃない?!」

などと、みんながあの子のことをうわさしていた。